研究課題名：
SARS-CoV-2 抗体検査法の改良に資する基盤研究

研究の目的と方法：
新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）感染による新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の予防には、SARS-CoV-2 のスパイクタンパク質に対する抗体が重要であることが知られており、多くの抗体検査試薬は使用されています。日本では、多くの方が複数回のワクチンを接種されていますが、新規変異株の出現により感染流行は終息せず、ワクチンと感染による複合免疫を保有する方が増加しています。このような複合免疫は、ワクチン接種と感染のタイミング、感染ウイルス株などの違いにより誘導される免疫の質が変化することが報告されています。一方、現在使用されている抗体検査の多くは、ワクチン接種歴のない感染者の検体を用いて開発評価されてきたものであり、多様な免疫履歴が抗体測定結果にどのような影響を与えるのか十分な情報がありません。
そこで、本研究では、厚生労働省の依頼により国立感染症研究所が実施する「令和 4 年度新型コロナウイルス感染症に対する抗体保有状況に関する研究」に参加された者から採取された血液検体の残りを用いて、様々な手法や検査試薬により SARS－CoV-2 抗体を解析し、免疫履歴の抗体検査結果に与える影響を評価するとともに、変異ウイルスに対する抗体を測定するための改良型試薬の開発に必要となる知見を収集することを目指します。
本研究の結果は、新型コロナウイルス感染症の予防や治療に非常に有用な知見をもたらし、社会的意義は非常に大きいと考えられます。なお、本研究では個人を特定する情報は使用しません。研究の成果は学会や学術誌にて発表します。その際にも、対象者のお名前など個人が特定できるような情報が公表されることは一切ありません。

研究の対象者及び対象期間：
2022 年 11 月から 2023 年 3 月までに実施される「令和 4 年度新型コロナウイルス感染症に対する抗体保有状況に関する研究」に参加された方
＊感染研では個人を特定する情報は保有しておりませんので、検体から個人を特定することはできません。

研究期間：
2022 年 11 月 29 日～2027 年 3 月 31 日

研究に用いる試料・情報：
「令和 4 年度新型コロナウイルス感染症に対する抗体保有状況に関する研究」の調査票でお答えいただいた情報（個人を特定できる情報を含んでいません）と血液検体の残余

研究組織：

機関	研究責任者	役割
国立健康危機管理研究機構　国立感染症研究所	感染病理部　部長 鈴木忠樹（研究代表者）	研究統括、SARS-CoV-2 抗体解析

試料・情報の管理について責任を有する者：
国立健康危機管理研究機構　国立感染症研究所　感染病理部　部長　鈴木忠樹

お問い合わせ先：
本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。試料・情報が本研究に用いられることについて、ご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記までお申出ください。

なお、成果の発表後は、研究対象からの除外に応じることができません。

〒162-8640 東京都新宿区戸山 1-23-1
国立健康危機管理研究機構　国立感染症研究所
鈴木　忠樹（研究代表者）
TEL 03-5285-1111　FAX 03-5285-1189